町長コラム

町長室からこんにちは No.4

一宮町長
馬淵 昌也

9月の13日は、玉前神社の例大祭でした。あいにくの雨模様でしたが、お神輿の巡遊時には小止みになり、幸いなんとか最後まで挙行することができました。

祭りというのは、共同体のつながりを強める役割があると考えられています。私も身をもってそれを実感したいと思い、大宮のお神輿の担ぎ手の中に加えていただきました。指揮の方々から時々お神輿を担がせていただきましたが、慣れぬこととて、却って皆様にご迷惑をおかけしたのではないかと恐縮しています。

釣ヶ崎に各神社のお神輿が集結し、一斉差し上げののち、一基一基還御の途につきます。ここは祭りのハイライトの一つですが、そこから町中までのルートは、観光客も少ない地味なところです。しかしそこには、地元の方が飲み物や果物を用意して待ってくれていて、温かいおもてなしをくださいました。祭りは本来こうした地元の方のものなのだ、ということを深く感じとることができました。

9月の18日には、振武館で玉前神社の雅楽会の皆さんによる、「月見の宴」の演奏がありました。この夜もあいにくの雨模様でしたが、平安以来の日本の王朝文化のエッセンスである雅楽を間近で聴けて、大変興奮しました。雅楽の生演奏を耳にすることなど、今の日本ではめったにないことです。こうした貴重な活動に接することができるのも、上総一の宮・玉前神社があればのことです。

玉前神社では、更に「上総神楽」も伝承されており、これは千葉県によって「無形民俗文化財」に指定されています。

最近、一宮について、サーフィンのことがよく語られます。もちろん、今日の一宮にとって、サーフィンは大変重要なものです。しかしその一方に、1200年の歴史を誇り、地域に根差してきた玉前神社を中心とする伝統文化が存在しています。サーフィンは、むしろ分厚い伝統の上に新たに加わった新雪のような存在でしょう。釣ヶ崎が神々の出会いの場であると同時にオリンピック会場にも擬されているように、一宮にはこうした古いものと新しいものが折り重なっており、それが一宮ならではの魅力になっています。私たちは、その両方を大事なものとして抱いてゆくべきなのだと思います。